



新社長の野口氏（左）と創業者で父の桶田氏。1年半ほど前から社長交代の準備を進めてきた

アルページュが社長交代

野口社長は桶田の長女で、74年生まれの42歳。社長交代は一年半ほど前から準備をしていた。野口氏が18年前入社した時はまだ売上高数億円。社員も10人程度の会社だった。創業から始めて、「03年に『アブワーザ・リッジ』で百貨店に出店したことは非常に大きい」と野口氏。国内の業界構造も移り変わった。「物作りはもちろんだが、今後ECを伸ばすことが重要」「EC勝ち組にならないといけない」と野口氏は意を用意。同社は8年設立。アブワーザ・リッジや「ジャスクリッパー」、「リラーディショール」、「マイストラーダ」といったブランドで20~30代の女性を中心支持されている。セール期間を短縮しながら、販売重きを置く戦略で、17年2月期は売上高・営業利益ともに業績好調。今春夏の販売率も順調らしい。

「社長交換について、『うるさい』と言つた人のほう

環境整備のためにも「利益重視」

新社長の野口氏（左）と創業者で父の桶田氏。1年半ほど前から社長交代の準備を進めてきた

女性が安心して働く職場を作る

「S-ホールディングスグループ」のディスカバール企業、アルページュ（東京）は、17日付で野原衣子常務代表取締役社長を昇格した。創業者で父の桶田俊一社長は顧問に就任。新体制でも利益重視の経営を継続し、従業員が働きやすい環境作りにも取り組む。（石井久美子）

い、急激に伸びないのも利益を重視し、自ら体でやっていけたら

ディスカバールとしてブランドの商品企画に携わってきた仕事をは今後も兼

務する。「軸は商品。毎日見ること

が大好きだ」と思う。

同社は社員の96%が女性。彼女た

ちが心して働き続けられるよう、

自身がロールモデルにならない

といけない。仕組みだけでなく、き

らんと企业文化や製品を作りたい。

自身も出席・育児を経験しておれ

り、奮闘する経営者を目指す。桶田

氏も「会社として残りを減らさう、

休みを取れそうと取り組んでいる

がそのためにも利益を出すことが

大切」と話す。

「社長交換について、『うるさい

な』などと話す人がいた

が、桶田氏は「七ヶ月働く親の背中を見渡してきた。野口氏、百貨店の服売り場に連れて来られることが多い。大人になると、出産後、家で過ごしていく時期に新しい服を着て、改めておしゃれは人生の気持ちは大切だ」と語る。これが「おしゃれをつぶやかれていた」というのを新社長に託す。

「お客様から見たときのブランドの価値を守り続ける」というのを

願いを新社長に託す。